

復活節第5主日礼拝 説教要旨(5月3日)

『愛のきずな』早川 真牧師

コロサイの信徒への手紙 3:12-17

コロサイの教会にあった問題、それは一言でいうなら、キリスト以外のものが救いのために必要であると教えられ、また信じられていたということでした。しかし聖書は人が救いに至る道は、ただイエス・キリストが救い主であると信じる信仰によるのだと言っています。パウロはそれらの教会に入り込むキリストだけでは不十分と考える思想に対抗するために、この手紙を書きました。

今朝の説教題とした愛のきずなとは、キリストへの愛におけるきずなです。そこには前提としてキリストの愛があります。選ばれるに値しない私たちを選び、聖なる者とし、愛してくださっている、そこにキリストの愛があります。そしてそこにこそ私たちの消えることのないきずながあります。教会はこのキリストの愛によって結ばれた共同体です。もし教会からこのキリストの愛が失われれば、私たちもまた、たちまちバラバラになってしまいます。

私たちは今一度、いつの間にかキリスト以外のものを通して私たちのきずなが結ばれていないかどうか振り返ってみたいと思います。教会においてどれだけ良い働きをしても、それがキリストの愛、キリストへの愛によらなければその働きは他の働きと一つとなることが出来ず、やがてバラバラになってしまいます。時にキリスト以外のもので人を判断してしまう未熟で愚かで弱い私たちです。しかしキリストの愛はそんな私たちに絶えず注がれています。キリストは今も私たちのため天で執り成し祈ってくださっています。それは私たちもまた互いに未熟さ、愚かさ、弱さを忍び合い、赦し合い、互いに祈り合うためです。私たちは何度でもキリストの愛に立ち帰り、その愛によってしっかりと結び合わされて、再び新たに歩みだしてまいりたいと思います。